

ACT!

SPECIAL



1999年
ノーベル平和賞受賞

2025 Year in Review

2025年

国境なき医師団の活動

国境なき医師団が運営する病院の遊び場で過ごす、やけど治療中の子どもたち。同病院では今年3月、3Dプリンターを使った革新的なやけど治療のプログラムを導入。子どもたちの笑顔につながる大きな成果を上げている。

／2025年4月、シリア

皆さまに支えられ、つなぎ続けた「命の希望」。
感謝を込めて、2025年の活動を振り返ります。

2025年

国境なき医師団(MSF)の活動

武力衝突が続き、危機的状態に置かれたパレスチナの人びと。世界各地でやまない暴力や、自然災害、感染症が多くの子どもや大人の命を脅かす中、今年、相次いだ欧米諸国の国際援助の削減……。そうした厳しい状況下にあってもMSFが医療を届けることができたのは、温かなご寄付を寄せてくださった皆さまのおかげです。心より感謝を申し上げます。2025年の活動の一部をご報告いたします。

国際援助の削減により、さらなる窮地に立たされる人びと。MSFはいまこの瞬間も、世界各地で活動を続けています。

人道援助における主要な支援国であった米国が、大幅な資金削減を表明したことにより、助けを必要とする世界中の人びとに深刻な影響が出ています。MSFのプロジェクトは皆さまのご寄付によって支えられているため直接的な打撃は受けていません。しかし活動停止を余儀なくされた他団体との連携中断や医療物資の不足、行き場をなくした患者の増加など間接的な影響が出ています。



MSFの医療テント。WHOによると、アフガニスタンでは今年7月時点で約422の医療施設が活動停止に追い込まれた。

国際援助削減の主な流れ(2025年)	
1月	トランプ米大統領が、世界保健機関(WHO)からの脱退を発表。
2月	米国政府は米国際開発局(USAID)などを通じて行ってきた多くのグローバルヘルスおよび人道援助プログラムへの支援を凍結。
3月	続いて低所得国の子どもたちへの予防接種支援、Gaviワクチンアライアンスへの支援打ち切りも発表。

米国のみならず、英国、フランス、ドイツ、ベルギーなどの欧州諸国も国際援助の削減を発表、もしくは実施しています。

3月～ 災害緊急援助

ミャンマー

すでに危機的状況にあった人びとを襲った、大規模地震。最も被害の大きな地域で、いち早く活動を開始。

3月28日、中部で発生したマグニチュード7.7の地震は、長引く武力紛争と政情不安に苦しむ人びとに、さらに壊滅的な被害をもたらしました。MSFは地震発生直後から現地に入り、特に地震の影響を強く受けた地域で心のケアを含む移動診療を実施。救援物資やシェルターの配布、278カ所の井戸の掘削による清潔な水の提供なども行いました。緊急対応は8月で終了しましたが、MSFは引き続き被災地にとどまり、持続可能で安全な水の供給体制の復旧に取り組んでいます。



修道院内に設置されたMSFの移動診療所で、血圧を測るスタッフ。

スタッフの声

「いま直面する困難を分かち合うことも、明日へ向かう一歩に」
心理士 荒木京子



家族や家を失い、仮設避難所も立ち退きを要求される中で大きな地震がすぐに来るといふ噂が流れ、皆不安を抱えていました。しかしグループセッションを通じ、物事の捉え方が変わるとともに、思いを分かち合う機会にもなったのです。起きたことは変えられませんが「人は困難の中でも希望を見出せる」、そう強く感じました。

通年 紛争下での医療

パレスチナ

ガザの人びとに、水と食料、そして命の尊厳を。かつてない物資不足の中でつなぎ続けた医療援助。

ガザ地区は2025年3月から完全に封鎖され、物資の搬入も極端に制限されました。また物資の配給場所も制限され、食料や水を求めて命がけで移動する人びとは、爆撃や銃撃の危険にも晒されました。栄養失調の患者が急増する中、病院では栄養治療食も不十分な状況に。9月下旬、攻撃の激化により、北部では活動を一時停止しましたが、10月10日に停戦の第一段階が始動して以降、徐々に再開。ガザ各地で外科治療や創傷ケア、妊産婦と小児のケア、給水活動などの医療・人道援助活動を続けています。



最新情報はこちら



MSFの診療所では、子どもと妊婦の4人に1人が栄養失調と診断された(2025年7月)。

スタッフの声

「とにかく何もありません。いまは手作りの治療用具で患者さんを支えています」

理学療法士 アブドルハミド・カラダヤ*



ナセル病院には攻撃に巻き込まれて重度のやけどを負った人など、多くの患者さんが運ばれてきます。しかし、必要な設備も医療器具もありません。私たちは仕立て職人に頼んで、やけどの傷を保護する布など、これまでに400を超える治療用具を製作して治療に役立ててきました。ですが物資不足はかつてないほど深刻で、全ての人には到底対応できていません。

*アブドルハミドは攻撃に巻き込まれ、10月に亡くなりました。彼の遺志を継ぎ、MSFは患者さんのために活動を続けてまいります。

【主な活動実績】

(2023年10月～2025年9月30日)

外来診療 **124万7557**件
入院患者の受け入れ **6万1178**件

2025 >>>

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

>>> 2026

通年 紛争下での医療

ウクライナ

見えない心の傷のケアに、各地で対応。戦争負傷者のリハビリ需要にも応える。

2025年、首都キーウを含む全土への攻撃が激化する中で、MSFは前線を中心に、患者の搬送や救急医療といった活動を、現地保健省と連携して継続。WHOによると、身内を亡くした人や国内避難民、兵士など、いまや全国民の半数以上が抱えているといわれる心の傷のケアにも、精力的に取り組んでいます。また戦闘によって重傷を負った人びとには、2つの病院で専門的な理学療法を提供。現地の理学療法士の教育にも力を入れています。



MSFでは心的外傷後ストレス障害(PTSD)に特化した心のケアセンターも運営している。

1月～ 紛争下での医療

南スーダン

地域住民の唯一の医療機関である、MSF病院への空爆。近隣の村に退避し、仮設医療テントで活動を続行。

今年に入り、南スーダンにおける医療援助活動が、たびたび攻撃に晒されています。北部にあるオールド・ファンガクは湿地や川に囲まれたへき地で、MSFが10年以上にわたり運営していた病院は、住民にとって唯一稼働している医療施設でした。そこを5月3日、武装勢力がヘリコプターで襲撃。医薬品などの倉庫も全焼し、病院の機能は完全に失われました。MSFのスタッフは20人余りの重症患者と共に近くの村へボートで退避。仮設の医療テントを張り患者の治療にあたりました。



炎に包まれた倉庫。スタッフ総出の消火活動で燃料タンクへの引火は免れた。



スタッフの声

「処置室もベッドもない。それでも一丸となって懸命に活動を続けました」

外科医 村上 大樹

たった3人の医療スタッフで、患者さんの搬送や、ボートへの医薬品や荷物の積み込みを必死で行いました。避難先のトチでは外科医の自分と内科医の1人が患者さんの処置にあたり、残った内科医が衛星電話で各機関と連絡をとって、もっと安全な場所へ移送するためのフライトの手配に奔走しました。銃弾で肩を吹き飛ばされた患者さんもいましたが、全員が命を取り留めたことだけは救いです。

9月～ 感染症対応

コンゴ民主共和国

再び迫る、エボラウイルス病の脅威。対応経験を生かし、拡大を食い止める。

9月4日、コンゴ民主共和国・カサイ州で出されたエボラウイルス病の発生宣言は、1976年に同国で初めて宣言されて以来、今回で16回目となりました。エボラウイルスは感染した動物や人の体液などを通して拡大するため、流行を阻止するためには迅速な患者の発見と隔離、適切な治療が重要です。MSFはすぐさま援助チームを派遣、現地保健省やWHOと連携し、治療センターの設置や、感染管理の強化などを開始しました。流行の抑え込みは着実に進み、10月末にMSFは緊急援助を終了。現地保健省などに活動を引き継ぎました。



治療センターから退院した初めての患者(左から2番目)と、回復を喜び合うMSFのスタッフ。

通年 医療危機援助

ハイチ

長年の政情不安、慢性的な暴力、誘拐……。必要な治療を受けることさえ危険を伴う地域へ医療を。

社会的な混乱が続き、治安が悪化するハイチ。相次ぐ病院の閉鎖と医療従事者の海外流出は、人びとから医療を受ける機会を奪っています。MSFは銃創や、やけどを含む外傷や性暴力の治療、母子保健などの維持に努めるほか、国際援助の削減が続く中で、やむなく活動を停止した他団体の活動の一部も継承。清潔な水の供給などにも取り組んでいます。



重度のやけどを負った患者の脚を治療する、MSFの医師たち。

患者さんの声

「MSFの専門的なやけど治療が僕たち3人の命を救ってくれました」

エマニュエルさん

僕とジョーダン、スタンリーはバイクタクシーの運転手でした。燃料を補給しようとタンクローリーの手前まで近づいたところ爆発したのです。激しい爆風に吹き飛ばされ、耐え難い痛みで自分がひどいやけどを負ったことを理解しました。ハイチには重度のやけどを治療できる専門病院はほとんどありません。MSFの病院で治療、投薬、心のケアなど高度なサポートを受けられたおかげで、3人とも快方に向かっています。



© MSF/ Marx Stanley Lévelité

負傷した患者の処置をする、外科医の村上大樹。国境なき医師団が10年以上運営する医療施設を武装勢力が空爆。ボートで退避した近くの村では仮設医療テントを張り、治療にあたった。
/2025年5月、南スーダン



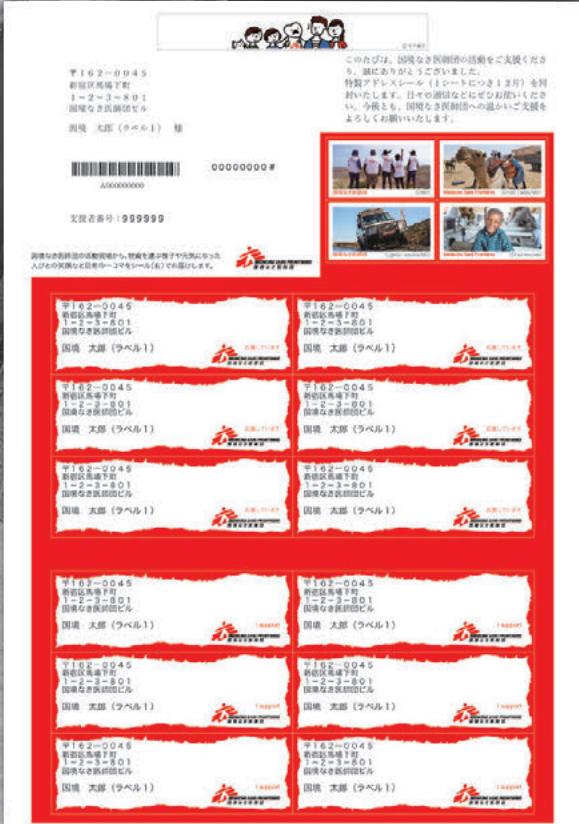
受付締切は2026年1月31日(土)

特製アドレスシールをお届けします。

同封の専用払込取扱票で寄付して下さった方に、日々の郵便物などにお使いいただけるお名前とご住所を印刷したアドレスシール(1シート12片)をプレゼント。

アドレスシールは3月中にお届け(領収書とは別送)

- ※2026年2月1日(日)以降にお受けした寄付については、印刷手配の関係で特製アドレスシールのプレゼント対象外となります(ご寄付は同用紙にて対象期間後も受け付けております)。
- ※アドレスシールの送付や印字に関する注意事項を同封の専用払込取扱票の欄外に記載していますので、ご確認ください。



(写真はイメージです)

2023年4月にスーダンで勃発した内戦により、難民となったアブドラ(左)と、看護学校卒業を目前に、国を追われたサファ(右)。二人はいま避難先のチャドで、共に国境なき医師団(MSF)のスタッフとして活動。自分たちと同様に難民となったスーダンの人びとを支えている。
/チャド

あなたの
寄付で
できること

2026年も全力で「命の希望」をつなぐために。

皆さまの引き続きのご支援を後押しに、国境なき医師団はこれからも走り続けます。

エボラウイルス病対応用の手袋

洗って繰り返し使えるエボラウイルス病対応用の手袋を9セット用意できます。

3,000円で9セット



© Fabien Lambertin/MSF

外科手術用ガウン

外科手術の際に医療スタッフが着用するガウンを15着用意できます。

5,000円で15着



© Tomas Sebek/MSF

栄養治療食

重度栄養失調の子どもたちに280食の栄養治療食(RUTF)を提供できます。

10,000円で280食



© Lucy Makori/MSF

緊急医療キット

避難民340人に3カ月間の医療を提供できます。

30,000円で340人分



© Thibault Fendler/MSF

※いただいた寄付でできることの一例です。外国為替による変動があります。

ぜひチェック&
フォローしてください

国境なき医師団ウェブサイト
www.msf.or.jp

Facebook
@msf_japan

X (旧Twitter)
@MSFJapan

Instagram
@msf_japan

LINE
@msf_japan

YouTubeチャンネル
国境なき医師団



▶ 感謝のメッセージ動画をお届けします

活動地から、支援者の皆さまへ。
MSFスタッフの思いを、ぜひご覧ください。



スマートフォンから

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料

(平日9:00~18:00)

2025年12月27日~2026年1月4日休業)

ご登録情報の変更は上記までご連絡いただくか、マイページ(右の二次元コード)でお手続きください。

発行元: 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田FIRST 3階



▲ 登録情報の
変更はこちら